



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。

8月は葉月(はづき)、9月は長月(ながつき)です。8月は「お盆*」があり、6日ヒロシマ・9日ナガサキの原爆忌、15日の終戦記念日を迎えることもあって、1年のうちでもっとも先祖や平和に思いを致す季節と言えるかもしれません。みなさんは、なにかそうしたことを考えるような本に出会いましたか? 9月10日は旧暦8月15日、十五夜です。

*函館・室蘭・根室・網走では、7月にお盆が行われるそうです。



ことはラニーニャで猛暑+厳冬か?

内地では最高気温が40℃超えなどという猛暑が続きました。学生時代、よく上野・青森間を夜行急行に乗ったボクは、熊谷(埼玉県)に少し停車時間があったので、飲みものでも買おうとホームに出たときの記憶があります。そこではまるで「熱風」にあおられたように感じました。いまでも「熊谷」と聞くと、そのときのことが思い出されます。

今年の本州の梅雨明けは記録的に早かった(6月中)ということですが、逆に北海道が梅雨みtainな高温、高湿度、降雨に見舞われました。そして、ちかごろ「タ立」が多いような気がします。これもかつての北海道にはあまりなかった事です。「タ立」ということばがあるのは知っていても、実際にタ立に出会うことはあまりなかったと思います。

ボクは大学1年のとき学生寮に入りましたが、暑さに耐えられず、近所のスーパーで売っていた一番大きい扇風機を買ってきて、笑われたことがあります。2年生からアパート暮らしをしましたが、とにかく暑さには参った。一晩中、全身をなめるように扇風機の風を当てて寝たもんです。4年間、クーラーもエアコンもない東京の夏はとにかく大変でした。

かつて北海道では梅雨もどきのような雨天の続く時に「蝦夷梅雨」とっていましたが、どうやらホントに北海道にも梅雨がやってきたのではないかと、お天気キャスターさんも言っていました。

本州および北海道のことはの猛暑・早い梅雨明け・北海道の梅雨現象は、ラニーニャ現象に端を発して、本州に張り出した高気圧の勢力によって偏西風も北上し、梅雨前線が活発なまま北に押し上げられた結果なのとか。逆に、エルニーニョ現象が起こると、日本では冷夏になる傾向らしい。いずれも南米ペルー沖の海面水温の高低がおおよそ1年単位で続く現象による影響ということですが、冬は反対に、エルニーニョの影響で暖冬になり、ラニーニャの影響では厳冬になるとのことです。

おかし、テジナーニャ、ってのがありましたな。



『写真集 沖縄戦』 大田昌秀監修 那覇出版社

(グラウンド側壁面「100」の棚の最下段)

「沖縄慰霊の日」の6月23日と翌日の5クラスの授業に、この写真集を持っていて紹介しました。77年前の終戦数カ月前、20万人の命を奪った沖縄戦の記録です。いま、ウクライナの戦争などの現地報道では、おどろかしい映像は流さなにか加工されることが殆どですが、この写真集は残酷でない範囲で、兵士や住民の遺体も掲載されています。住民が避難している壕(ガマ)に爆弾を放り込む米兵、火炎放射器で一帯を焼き払う米兵、鉄の暴風雨と称される対空砲火や艦砲射撃の写真、山容が変わるほど砲撃を受けて丸裸になった稜線、上陸してすぐさま造営した嘉手納飛行場(後の嘉手納基地)、泥だらけでぼろぼろになった着物を着、裸足で逃避行を続けた、やせこけた子どもやおじい、おばあ姿。ほとんどは米軍によって撮影されたものなのでしょう。一度、手にとって見てごらん。保健室前の体重計で測ったら、3kgありましたから、気合いを入れて手に取るように。

上皇さまは天皇在位時代、「日本人として忘れてはならない4つの日がある。8月6日、8月9日、8月15日、そして6月23日である」と言われていました。ボクもそう思います。

毎年、沖縄慰霊の日や両原爆の日、終戦記念日などには、老いも若きも「二度と戦争してはいけない。戦争の悲惨さを次の世代に受け継いでいくべき」と言ってきました。そして、もちろんボクらもそのことに共鳴し、こうやって授業や通信などで伝えてきたつもりです。これがボクにとってできる精一杯の「二度と戦争してはいけない」と伝えることだったかなと思います。

それにしても本校図書館には、こんな立派な書籍もあるんですね。沖縄戦に関してはまだたくさん本があります(「沖縄戦」で検索できる本だけで11冊も)。

先日図書室を来訪されたお客さんからは、立派な図書室だと褒めていただきました。先人の賜と思います。

高校生に読んでほしい50冊より～「泣」

1年生には夏休み前、PR誌、新潮文庫の「高校生に読んでほしい50冊」、集英社文庫の「なついち2022」を配布しました。これは、年度初めに出版社から必要かどうかの打診があったので、注文して取り寄せたものです。書店の店頭などでも配布されています。

さて、今回は新潮社の「高校生に読んでほしい50冊」に紹介された本を、その紹介文とともに、6人掛けのテーブルに並べてみました。本屋さん風に言うなら「平積み」状態にして(1冊しかないから積んでないけどね)、手に取りやすいようにしてみました(もし授業で使うとき、じゃまだったらちょっとよけてお使いください)。夏休み中も、あれこれ図書室の改良やら、本選びやら、図書館だより執筆やらと、忙しくしておりました。

今回は「泣」というカテゴリでチョイスされた中から、5冊を厳選してみました。『塩狩峠』なんかは、もしキミが本州にでも進学して、友だちに北海道文学ファン、三浦文学のファンがいて、「旭川だったら、塩狩峠が近いんだよね?」なんて話しかけられたらどうしますか?え?何のこと?って答えたら、友だちにはなれないかもしれないですよ。どうです、読んでみませんか?

『ツナグ』 辻村深月 新潮文庫

『せんせい。』 重松清 新潮文庫

『夜のピクニック』 恩田陸 新潮社(単行本)

『博士の愛した数式』 小川洋子 新潮社(単行本)

『塩狩峠』 三浦綾子 新潮社(単行本)



書店で売れ筋の本は?

図書館前の掲示板に、「旭川で売れてる本」「札幌で売れてる本」「東京で売れてる本」というコーナーを新設してみました。

これは、週刊「あさひかわ新聞」、「北海道新聞」月曜夕刊、「朝日新聞」土曜朝刊に掲載されている、「今週のベストセラーブックス」というような囲み記事があるのですが、そのコピーです。

旭川の情報元の書店は、ジュンク堂書店です(1条8丁目フィール内)。これがコーチャンフォーだったり、富貴堂書店、宮脇書店、未来屋書店だったら当然違う結果(客層も異なるでしょう)なのかもしれませんが、あさひかわ新聞さんにうかがうと、当面ジュンク堂さんの情報を使うのだそうです。朝日新聞と道新は、毎週情報元が異なるようです。

東京・札幌・旭川で共通して、最近よく売れているようなのは、芥川賞・直木賞両受賞作『夜に星を放つ』・『おいしいごはんが食べられますように』のほか、『希望の系』(東野圭吾)、『ツナグ 想い人の心得』(辻村深月)、そして『80歳の壁』(和田秀樹)といったところのようです。ただし、札幌のベストセラーは、週によって「新書」のベスト10だったり、「単行本」のベスト10だったり、「ビジネス書」のベスト10だったりするので注意してみてくださいね。

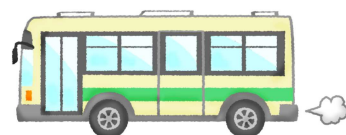


先日、高文連の地区大会で、旭川実業高校を訪ねました。20年以上も旭川近辺の高校に勤めていて、実業高校の中に入るのは初めてでした。講堂が立派でした。こういうの、ほしいよなあ、公立校にも。その実業の図書館がまた立派で、参考になるところがたくさんありました。いくらかでもまねさせていただきたいなと、あれこれメモして帰ってきた次第。じつは、よその学校に行くと「お宝」を発見することがあるんだよね。いまみんながよく目になっている「3年間の進路見通し表」の原型は、市内某高の廊下に貼ってあった1枚のプリントから構想したものなんです。こういうの、うちの学校にもあったらいいなと。その学校では何気ないプリント1枚でも、慣例で引き継がれている取組でも、他校の教員の眼にとっては「なまら新鮮」に映ることがあるもんです。

さて今回の「ベストセラー」記事のコピーは、実業さんでやっていたのではないけれど、ちょっと思いついたもので、やってみました。ご参考までに。

ちなみに実高さんでは、全国紙と地方紙の計4紙だったかな、週1回の「書評」コーナーをコピーして掲示していました。うちでも、全面ではないけれど、これはと思われた単巻の書評、ブックレビューのコピーは掲示しておりますので、見てくださいね。今回は、今年度上半期の芥川賞、直木賞受賞者の関連記事を掲示しておきました。

バス無料DAY



「音楽大行進の日」「買い物公園まつりの日(2日間)」「旭川市民の日」の計4日間、旭川市内を発着する路線バスが「無料」になる事業が実施されました。事業の主宰者は旭川市。市の広報誌5月号の『こうほう旭川市民「あさひばし」』に載っていました。ほかにフリーペーパー『ライナー』などにも。1階自動販売機横にもポスターが貼ってありましたね。

初日と2日目、4日目には市内線のバス計20本に乗ってみました。ふだん乗ることのない路線に乗って楽しかったです。3日目。都市間バスは対象外ということでしたが、いなかん(都市間ではない)バスに乗って留萌へ行ってみました。ちょうど親の命日も近かったので寺と墓参りです。

留萌線の始発バス停では長蛇の列ができており、係の人によれば前日は満員で乗車を断ったのだそう。それで、この日は往復とも増発便を出すほどの混みようでした。なぜこんなに混むのか、みなさん留萌に何しに行くのか聞いてみたところ、旭川の人には海産物を食べたり買ったり、磯遊びをしたり、増毛まで足を伸ばしてサクランボ狩りや国稀酒造に行く人が多いということでした。どうせタダならできるだけ遠いところまで、ということらしい。空港にも層雲峡にもタダで行けるわけなんですね。

乗車した人の「整理券」に基づいて、あとから運賃を市がバス会社に払うという仕組みなのかな? 歴とした税金です。納税者の一人として、ありがたく活用させていただきました。

感想として、やはり普段のバスより乗っている人は多かったようです。また、こういう情報に敏く、活用するのは中高年に多いような気がしました。中高年齢層はちゃんと知っていて、整理券だけを取って乗車し、タダで降りてゆく。若い人ほど知らないらしく、いつものようにICカードをタッチして乗車しようとする。そこでの運転手さんの対応がさまざま。ミラーで見て、バスカードをタッチしようとする客がいたら、今日は一日バス無料の日ですから、整理券だけ取ってください、と一丁寧に説明する運転手もいれば、「カードでタッチしないで!」とぞんざいに注意するだけの運転手も。若い人ほどきょとんとしている様子でした。みなさんは知っていました?

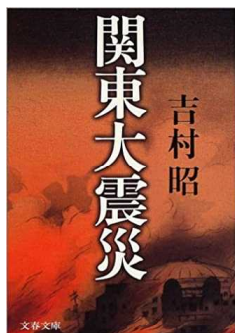


じつは毎年全国各地で9月頃に行われる「バスの日」というイベントがあります。旭川では、小学生と保護者がエントリーすると、1日無料でバスに乗り放題というイベントが行われていました。もちろんボクは子どもが小学生の頃、参加させていただきました。その時、雪の美術館とかクラフト館などという施設を知りました。旭川を知るいいイベントだったと思います。

(ところで8月18日朝日新聞に気になる旭川のバスの記事が……。これについてはまた。)

今回のイベントは、旭川市制施行100周年の記念事業ということのようです。担当は市の地域振興部都市計画課ということになっていました。いったいだれがこんな企画を発案したのでしょうか？そして市民の受け止め方はどうだったのだろうか？そんなことがそのうち、市の広報なんか載るのかな？

みなさんの中にも将来、市役所職員を志望する人もいます。経済学の勉強をして、地域のためになるような仕事をしたいと考えている人もいます。そういう人はこういうイベントや事業についても参加してみるとか自分なりの考えを持ってみたいとかしてはいかがかな？



9月1日は 防災の日

1923(大正12)年9月1日午前11時58分、関東大震災が起きました。マグニチュード7.9、震度6(当時の最高震度)だったそうです。京浜一帯(東京～横浜)で家屋の全半壊21万、焼失21万、死者行方不明者は10万5000人あまりという未曾有の災害でした。江戸時代以来の倒れやすく燃えやすい構造の家屋だったことが、甚大な火災被害をもたらしたとも言われます。また、情報の未発達な時代ゆえ、デマがデマを呼んで「朝鮮人大量虐殺」などの凄惨な事件も起きています。

鴨長明は『方丈記』で、その生涯のうちに体験した大地震、大火事、大風、飢饉などを記しています。ずいぶん災害が多かった時代のように感じられますが、ボクが教員になってからでも、阪神淡路大震災、北海道南西沖地震、東日本大震災、熊本、長野その他たくさんの地震がありました。台風被害や水害、さらには火山噴火も枚挙にいとまがありません。ですから、日本に暮らす人々にとって、自然災害は身近なものですね。ぜひ過去の大災害の記録を読んでみてください。

『関東大震災』 吉村昭 文春文庫

『東京震災記』 田山花袋 河出文庫

『マンガでわかる災害の日本史』 磯田道史 池田書店

『巨大地震と火山噴火をよく知る本!』 GEOペディア制作委員会 清水書院

最後の『巨大地震と〜』の本なのですが、日本の山地、山脈等を描いた地図があるんですが、北海道だけでも5つもの間違いを発見してしまいました。天塩岳が「天地岳」、天塩山地が「甘塩山地」、芦別岳が「戸別岳」、圧巻なのが旭岳を「大雪山」と表記しています。道産子のみなさんは、「大雪山」という山はないこと、北海道の最高峰は「旭岳」であることは知っていますよね？

2年前に出た、とてもいい本なのですが、どうしてこんな杜撰(ずさん)なことになったのでしょうか？残念です。

災害に逢う時節には災害に逢うがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。是はこれ災害をのがるる妙法にて候。[良寛]

(災害にあったら慌てず騒がず災害を受け入れなさい。死ぬるときが来たら静かに死を受け入れなさい。これが災害にあわない秘訣です。)

なんだか身もふたもない言いぐさのように聞こえますね。1828年に新潟をおそった地震では、1500人以上の死者が出たそうで、その際、良寛が、子どもを失った人に宛てた見舞いの手紙に書かれた言葉だそうです。

人として生まれたからには生老病死から逃れることは出来ず、あるがままを受け入れ、その時自分が出来ることを一生懸命やりなさい、という趣旨のようです。災害に遭ったときにはたしかにうちひしがれますが、そのままでは絶望してついに、せっかく助かった自分の命まで縮めてしまう。ならば……。という、禅僧ならではの言葉でしょう。地震、噴火、風水害など頻発する日本ですが、おかしから同じだったのでしょうか。であるからこそ、こうした思想も生まれ、そのつど立ち直ってきたものなのでしょう。～防災の日に寄せて。

～ ことばつれづれ ～

『太郎物語』は中学の教材でした

本紙3号(6月号)で、曾野綾子の『太郎物語』を紹介しました。その際、「高校1年生の時の教科書に出てき

たような気がする」と書いたのですが、よく調べてみると、中学2年生の教科書で習った教材でした。

分厚くて、白黒だけの印刷で、写真やカットは少なく、紙質は悪く、いまの教科書とは雲泥の差ですが、教材としては味わい深い文章や、評論もあれば詩歌もあり、戯曲だって読んだし(ベニスの商人)、敬語やことばのきまり(文法)、古典、などと豊富な内容で、義務教育でしっかり学ば、けっこう国語の力はついたんだな、と思いました。古典で言えば、『徒然草』が載っていて、このうちの、「仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ…」の章段を暗誦したことが思い出されました。その後何十年も忘れずにいます。つくづく、こういう頭の柔らかい時期に憶えたことは、一生忘れないものだなと思いました。

教員になってから読んだ教材で思い出深いのは、「イースター島」の話です。何度か、そして、違った文章で読んだような気がしますが、どのようにしてモアイ像が作られ、なぜモアイ像を作った部族が減り、島の森林が失われたか、という話がとても興味深いものでした。札幌の伯父の墓がある某墓園にはなぜかモアイ像がたくさん立っています。

国語という教科は、単に「言語運用技術」の勉強ではなく、書かれた内容から学ぶことの多い、知識・教養を高める教科ですね。ときに倫理や道德の話題であったり、芸術や科学、産業や歴史、創作からも自分のあり方生き方に照らし合わせて考えを深めることができる。なんてすばらしい教科なんだろう!と思っていたのですが、こんどの新課程や新大学共通テストでは、残念ながら「言語運用能力」の方に傾きつつあるような気がします。

ともあれ、まだまだ教科書教材には幅広いジャンルのいい文章がたくさん載っています。こうした勉強をできるのは高校までです。その後は自分で本を探し、本に出会い、学びを広げ、学びを深めていくことになります。一生、勉強です。

音 便



古文を読んでいると、「ウ音便」「イ音便」「促音便」「撥音便」の語形に出合いますね。ボクは国文学を専攻したクチではないので、詳しくは分かりませんが、授業では、これは言いやすいように変形してきたものなんだ、と説明しています。したがって、口承で伝えられたという平家物語(鎌倉時代)なんかだと、時代が下った事とも相まって、平安文学よりも音便化した語形をたくさん目にするわけです。おそらく、能や狂言(室町時代)などではもっと顕著なのではないかと思いますが。

むかしは、「芸術鑑賞」と称して、能や狂言の古典芸能、落語、演劇などのプロを年に一度、ジャンルをローテーションして学校に呼んで、全校生徒で鑑賞する行事がどの学校でも行われていました。ボクは桂歌丸さんとトイレで一緒に並んで用を足したこともあります。たくさんの落語家、ほんものの狂言、プロの演劇などを間近に見ることができて、思えば幸せな体験ができたのだなあ、と思います。「学校週五日制」が始まってから、こうした行事は真っ先に削られていきました。多くの高校生は、3年に一度は「狂言」で、中世の日本語の話し言葉を学ぶ機会にも恵まれていたわけです。これを国語の時間に演じるのも難しい。いまなら「動画視聴」なんかがあるのかもしれませんが。

さて、現代語においても、言葉は言いやすいように変化を続けています。これは音声言語のさがなのだろうと思います。

「なので」ということばを、接続詞のように文頭に使うのは、文章語としてはよろしくない、^{けいちようふく}といつも授業では言っています。話し言葉ならば致し方ないとしても、書き言葉としては軽佻浮薄の感をぬぐえない。また、接続語をやたらと敬語化(丁寧語化)する傾向もいただけない。「ですが」「したがいまして」「以上をもちまして」の類いです。「しかし」「したがって」「以上で」でよろしい。

最近、この「なので」に新たな変化を見いだしています。「なんで」です。「なので」の撥音便形ですね。もちろん、書き言葉ではなく、話し言葉においてですが、ラジオやテレビでしゃべる人が、「なんで」を連発するのをよく耳にするようになりました。





shutterstock.com - 1649500942

思うに、「そういうことなので」⇒「なので」⇒「なんで」という具合に、簡素化、音便化していったものでしょう。ことばは使っているうちに全部きっちりしたカタチで言わなくても伝わる、という意識が働いて、簡易な方へ、楽な方へと変わっていくも。その現象の一つなのでしょう。

そのうち、生徒の作文、小論文にも「なんで」が登場するのでしょうか。また一々このことばを使

ってはいけないと説明をしなくてはいけなくなるのかと思うと気が重い、そんなときやもう退職して

ヤングケアラー

第1期選書で、「ヤングケアラー」に関する本を2冊入れました。

「ヤングケアラー」って知ってますか？知らない人はこれを機会に知ろう。家族の介護や家事に追われ、子どもらしい生活を送れないでいる子どもたち、という定義です。たしかに、放課後の時間、自由に遊んだり部活動に参加したりできる他の友だちとは家の事情が違うな、とは思うものの、自分自身が「ヤングケアラー」なんだと気づいていない子どもも多いのだそう。しかし、中学校の1クラスに2人はいて、全国に3万人以上いるという統計だそうです。

朝日新聞に**連載記事**もありましたので、併せて**掲示板**に掲示しておきます(7月15日までの4回分)。

『ヤングケアラー』 毎日新聞出版社 ⇒新着図書の棚に

『ヤングケアラーってなんだろう』 渋谷智子 ちくまプリマー新書 ⇒同

和 本

岩波書店の『図書』7月号に、和本の装丁(正しくは装訂)には5種類あると書かれていました。

①卷子装(かんすそう)、②折本装(おりほんそう)、③粘葉装(でっちょうそう)、

④綴葉装(てつようそう)、⑤袋綴装(ふくろとじそう)

それぞれ、どんな形態(または綴じ方)か、わかりますか？

①はいわゆる巻物の形態をしている書物です。②はよく儀式で読まれる式辞祝辞の類いで用いられます。お経や過去帳なんかにね。③は本の背の方を糊で貼り固めたもので、いまの洋装本と似ています。紙を半分に折って、山折りの外側の背の方の部分に糊を付け、重ねていくのです。④は糊ではなく、糸で綴じ合わせたものです。⑤は紙を真ん中で二つ折りにし、袋でない方を糸で綴じ合わせた形です。出版が盛んになった江戸時代の和本で、一番多い形態かと思います。糸で綴じる本は、糸のかがり方にも順序があります。

ボクは大学の図書館学の講座の一つで、洋装本を作ったことがあります。その技術で、卒業論文を自作で製本しました。業者に頼むと数千円したのではなかったかな。なかなかないかもしれないけれど、製本技術の講習会なんかがあったら参加してみるといいよ。へえ、本ってこんな風に本体と表紙が合体してるんだあ、って、ビックリすると思います。



「寝」 二題

● 二度寝

あさひかわ新聞7月19日号に、医師による健康エッセイが掲載されていました。毎月第3週号に掲載されるようで、今回は「二度寝が身体に与える影響」というものでした。概略、下記のとおりです。

「寝直し」は身体に悪い。人間の身体は朝の3時半を過ぎたあたりから、自動的に起きる準備が始まる。身体が起きようとしているのに寝続けると脳に悪い影響が。せっかく寝て休んだ脳が無駄に動き出し、それまでの睡眠を台無しにしてしまう。身体の自律神経やホルモン分泌などの日内変動は地球の自転に従っている。だから目を覚ますのは日の出に合わせるのがベスト。睡眠時間は小学生までは8時間、それ以降は7時間ちょっと。睡眠ホルモンの分泌上、短くても6時間ぐらいがベスト。目覚めてから1時間しないと胃腸が起きないので、朝ご飯がないがしろになる。2時間しないと脳も身体も十分に活躍しない。朝寝の人は午前中を損することになる。

● 授業中寝ないで集中するために

図書室カウンターにて毎月自由配布されている高校生新聞6月号に、「授業中、寝ないで集中するには」という記事がありました。

授業に集中する生徒の3つの特徴

①規則正しい生活で夜更かしがない

習慣の力は大きい。寝る時間、起きる時間、食事の時間など、毎日ほとんど変えることなく、習慣になっていると昼間に眠くなることは少なくなるということです。昼間に眠くなる一番の原因は夜更かしです。翌日のパフォーマンスに悪影響が出ないよう、生活スタイルを規則的にして、毎日同じ時間に同じ事をする「ルーチン化」をするといいいのこと。



②自分にとって意味のある授業、好きな授業だ

夜、眠れないときは「つまらない本を読む」ことが効果的と言われています。おもしろい本であればまさに「寝食を忘れて」熱中することもあるでしょう。残念ながら、興味の持てない授業もあるかもしれません。全ての教科に興味を持てて、全ての先生、全ての時間がの授業がおもしろい、ということはありません。でも、授業に集中できている人はきっと、なにかしらの興味を持とうとしている、なにかためになることはないかと、聞き逃すまいとしているのかもしれません。なにも受身ばかりの「おもしろさ待ち」ばかりしていないで、攻めの「おもしろさ探し」をしてもいいんじゃないかな。



③眠くならないための仕組みができている

授業中に寝ない生徒は眠くならないための「仕組み」を作っているといいます。それは「授業中、手を動かす」ということだそうです。それも、ただ板書を写すというだけでなく、先生が口頭で話した中で「重要」と思う部分をメモしたり、蛍光ペン、色ボールペンを駆使して目立たせる作業、情報の分類をしていると眠くならないということです。イメージを絵図にするというのかもしれませんが。ボクの授業なんかだと、板書写すだけでも忙しいかもしれませんが……。でも、たまにボクを書くヘタな絵を、上手にノートに書いてくれた生徒がいたりなんかすると、感激します。

昔の生徒で、先生の口癖をカウントするという生徒がよくいました。「えーと」を1時間に何回言ったか、語尾に「ね」を何回付けたかを「正」の字を書いてカウントする。これは非常にくだらないことで、何の生産性もないことだけれども、まあ、寝ない、という1点に限っては、「眠くならないための仕組み作り」の一つではありますね。

でも、これって、本業の授業内容がホントにつまらないか、話し方が悪くてよく聞き取れないがために、別のところで遊ばれておちょくられているかのどちらかなんでしょう。ボクは教員になりたての頃から、「えーと」や「ね」のような口癖を数えられるような話し方をしないように気をつけてきたつもりです。が、果たして如何？



無理からぬ

「～夫人が複雑な心境になるのも、無理からぬ話だ。」という一文に遭遇しました。

ふと、「無理からぬ」ってどういう語源かと気になりました。「ぬ」は打消の「ず」の連体形でしょう。すると、「無理から」って、なんとなく形容詞の補助活用(2列目のカリ活用)の未然形ばい(助動詞「ぬ」に続いているからね)が、「無理し」なんていう形容詞があるはずもなく、なんだ、この「無理からぬ」は？と疑問を持つに至りました。

辞書にはちゃんと答が書いてあるんですね。

【広辞苑】「からぬ」は「良からぬ」など形容詞の活用の類推から付いたもの。無理ではない。

【大辞泉】形容詞未然形語尾に打消の助動詞「ぬ」のついた「よからぬ」などの「からぬ」を「無理」につけてできた語。無理ではない。道理である。当然である。

【明鏡】「よからぬ」などからの類推で、形容詞ではない「無理」に「からぬ」をつけてできた語。正しい形の「むりならぬ」よりも広く使われる。

【新明解】多分に道理がある。もっともな。(語源説明なし)

久々に辞書の引き比べをしました。おもしろいですね。やっぱり「使い方指南」は『明鏡』が一枚上手でしょう(この「上手」は「うわて」と読みます)。

新聞切抜き拾い読み

ここに取り上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です！

館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を！



▼「広島原爆の日 首相あいさつ」 北海道新聞 8/6夕刊

広島原爆の日の夕刊に、広島市長平和宣言全文と、岸田首相あいさつ全文、国連事務総長あいさつ(要旨)が載っていました。その中で気になったのが、岸田首相が

「77年前のあの日の惨禍を決して繰り返してはならない。これは、唯一の戦争被爆国であるわが国の責務であり、被爆地広島出身の首相としての私の誓いです。」

と述べた部分です。岸田氏は「広島出身」なのでしょうか？生まれも育ちも東京なのではないでしょうか？広島を選挙の地盤として広島県民の票をもらって国会議員に選出されているけれど、「出身」というのは言い過ぎではないのか？だったら、かつて同様に首相となった鳩山氏は「北海道出身」と言えるだろうか？

なんだか違和感を持った「首相あいさつ」でした。

▼「戦没者追悼式 終戦77年世界平和祈る

陛下「深い反省」4年連続 首相、加害責任触れず 北海道新聞+朝日 8/16

終戦記念日翌日の、道新1面トップの見出しです。1枚めくって3ページ目には、「首相、安倍路線踏襲」の見出しで、**戦没者追悼式での式辞**をめぐる特集記事が載っていました。1993年の細川首相以降、歴代首相の式辞が一覧になっています。93年に日本新党の細川護熙氏が初めてアジアの戦争犠牲者に哀悼の意を表し、94年社会党の村山富市氏は「深い反省」を表しました。自民党も96年の橋本龍太郎氏以降代々「加害責任」と「反省」に言及し、小泉純一郎氏はいっそう加害責任を明確化し、第1次安倍政権までは、太平洋戦争における日本の加害責任に言及し、「反省」の意を述べてきた。民主党政権も同様だった。

ところが、2013年の第2次安倍政権から加害責任や深い反省の文言を削除した。その後を継いだ菅、岸田首相も安倍氏を踏襲。このことについて、道新は他紙よりも強いこだわりを持って書いていると考えられます。現・上皇さまが天皇時代、また、今上陛下がつづいて「深い反省」を述べられているのと対照的だと、毎年指摘しています。今年の**社説**にも書いてあります(タイトル「**首相の追悼式辞 戦争の反省なぜ触れぬ**」)。朝日新聞の社説でも触れています。とても大事なことだとボクも思います。関心があったら、どういうことなのか、調べてみましょう。

そうだ! 図書館へ行こう!

三浦綾子記念文学館、井上靖記念館、旭川文学館にも行ってみよう!

(文責 伊丸岡圭一)